



2020年度

より大学入学共通テスト及び新学習指導要領がスタートした。文部科学省は、「主体的・対話的

で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現すると説明している。

本書は、40年近く教育に携わってきた著者が「教育

界の現状や教育改革の動きにみられる矛盾点を指摘し、より良い方向性を模索するための問題提起をしていきたい」と述べているように、教育現場を踏まえて

様々な疑問や課題について、彼の見解を論じている。

第1章では、「小学校英語活動が楽しい」という調査結果について、「幼稚園でやってきたお遊戯を英語でやるようなもので、けっして勉強ではない。多少勉強の要素を取り入れるにしても、他の教科のような知的鍛錬にも教養にもならない」と言



教育現場は困ってる 薄っぺらな大人をつくる実学志向

榎本博明 著
880円 平凡社新書
☎0570-045820

及している。

また、「主体的で深い学びやその手法としてのアクティブ・ラーニング」については、アメリカの教育学者が提唱したアクティブ・ラーニングを挙げて、「アクティブ・ラーニングとしてのグループワークやプレゼンテーションが有効に機能するかどうかは、それに先立って知識の獲得が十分に行われているかどうかにかかっている」と主張している。

第2章では、能動的・主体的な学びは「教えない授業」として誤解されていることを挙げ、「能動的・主体的は、学習者と教授者の相互作用によって生み出されるものであり、学習者の知的好奇心を刺激する授業をする力量が教師には必要である」と記している。

この他、学力低下、キャリアデザイン教育、受験勉強の意外な効果など、新しい教育における喫緊の課題などを多面的な視点から考察している。

(鈴鹿大学教授・高橋美由紀)